

投資事業評価調書（継続:再々評価）

部課室名	農林水産部農林水産局 農地整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	農地整備課長 松浦 猛 (関根 茂雄)	内線	4003 (4014)
------	---------------------	---------------------	---------------------------	----	----------------

事業種目	ほ場整備	事業採択年度	S 6 3		現計画	再評価時点
事業名	経営体育成基盤整備事業	着工年度	S 6 3	総事業費	約38億円	約29億円
		再評価年度	H 1 0	内用地補償費	約1.24億円	約1.52億円
事業区間	大沢地区			完成予定年度	H 1 7	H 1 5
所在地	神戸市北区大沢町			進捗率 (内用補進捗率)	95% (95%)	61% (71%)

事業の目的		事業内容	
<p>本事業は、地すべり危険区域で狭小・不整形な谷地田の地形条件で営農が行われている神戸市北区大沢町において、ほ場整備により区画形質の改善、用排水路・農道等の整備、農地の集団化を行い、農業経営の改善、優良農地の確保とあわせ、担い手の育成を目指して実施するものである。</p>		<p>区画整理 142ha 残事業量 [換地業務一式]</p> <p>工事費の負担割合 (国：50%、県：27.5%、市：15%、地元：7.5%)</p>	

進捗状況	<p>昭和63年度に着工し、再評価時点（平成10年度）の進捗率は61%であった。</p> <p>本地区は、地すべり多発地域であるが、地すべり防止区域内外で想定外の地すべりブロックが確認され、また一部では地すべりの兆候が見られたためにその対応に時間を要し、事業工期が2年間延伸している。</p> <p>面工事も平成15年度で完了する見込みであり、16年度以降は換地処分に向けた作業を行い、17年度に事業完了の予定である。</p>
------	---

評価視点 評価結果の説明

(1)必要性	<p>当地区は、水稻・酒米を中心に、トマト、ナス等の野菜や飼料作物も栽培しているが、現状の農地は狭小・不整形で用排水路、農道等も未整備なため、昭和63年度からほ場整備を実施してきた。</p> <p>担い手（集落営農組織）の育成状況については、計画している5集落営農組織すべてが設立済みであるため、引き続き事業を実施し、農地の集積を促進して生産性の高い農業構造の実現を目指す必要がある。</p>
(2)有効性・効率性	<p>費用便益比 $B/C = 1.11$、所得償還率8.1%であり、事業としての効果が期待できる。</p> <p>押え盛土工等を行うことにより、国営事業と連携した地すべり防止対策を講じている。</p> <p>ほ場整備事業のなかで県道・河川等の用地を創設するなど、効率的な整備を行っている。</p>
(3)環境適合性	<p>周辺地域で発生する公共残土を受け入れるとともに、再生砕石等を積極的に利用するなど環境保全に努めている。</p>
(4)優先性	<p>営農に多大な時間と労力を要している本地区においては、ほ場整備事業により農業経営の安定、地域の活性化を図るとともに、地すべりの抑止と合わせた整備を進め、早期に事業を完成する必要がある。</p>

再々評価の結果	継続妥当	左の理由	上記の理由により継続が妥当である。
---------	------	------	-------------------